

第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画 進捗報告書

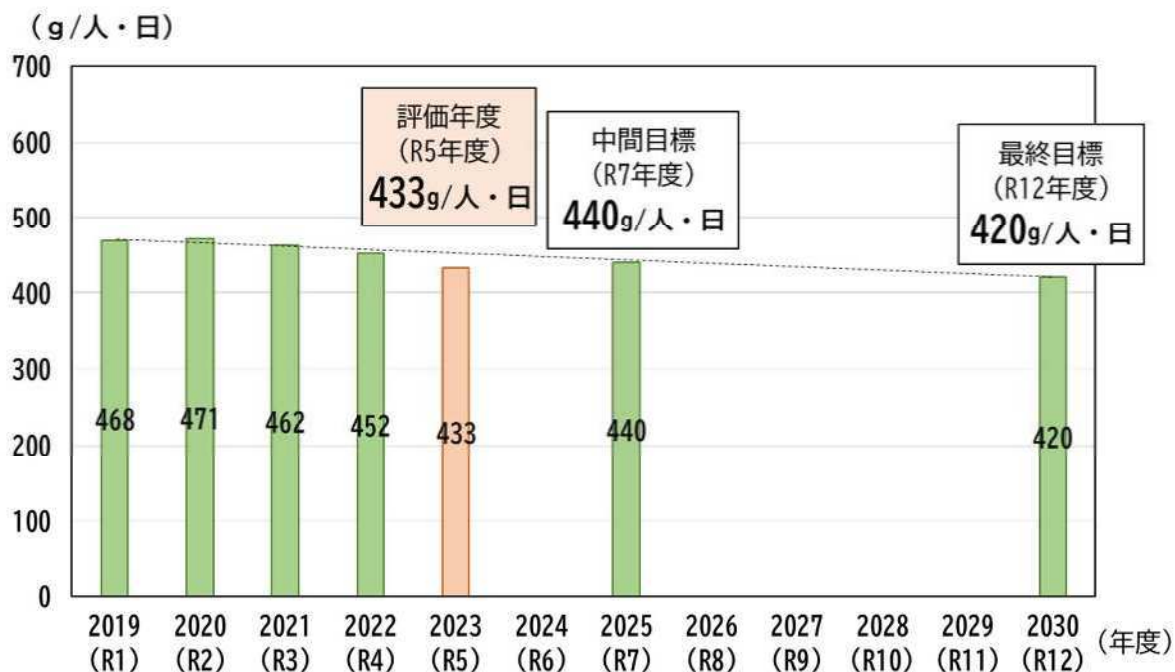
環境局循環社会推進課

第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画 進捗状況評価

計画目標の項目	2019 (令和元)年度 (基準年度)	2021 (令和3)年度	2022 (令和4)年度	2023 (令和5)年度 (評価年度)	2025 (令和7)年度 (中間目標年度)	2030 (令和12)年度 (最終目標年度)
市民1人一日あたりの家庭ごみ量	468g	462g	452g	433g	440g以下	420g以下
事業系ごみ量 (市の施設で処理した量)	180,582トン	161,908トン	162,292トン	156,021トン	167,192トン以下	157,682トン以下
リサイクル率 (一般廃棄物)	28.0%	27.9%	26.6%	27.2%	30%以上	32%以上
うち、家庭系リサイクル率	33.1%	30.7%	29.1%	29.9%	34%以上	36%以上
一般廃棄物処理に伴い発生するCO ₂ 排出量※	88千トン	94千トン	86千トン	94千トン (速報値)	60千トン以下	60千トン以下
産業廃棄物の最終処分量	203千トン (H30実績)	266千トン (R1実績)	253千トン (R2実績)	314千トン (R3実績)	185千トン以下	170千トン以下

※ CO₂排出量は、一般廃棄物の処理で発生したCO₂量から、焼却工場で発電することで削減したCO₂量を差し引いて算出

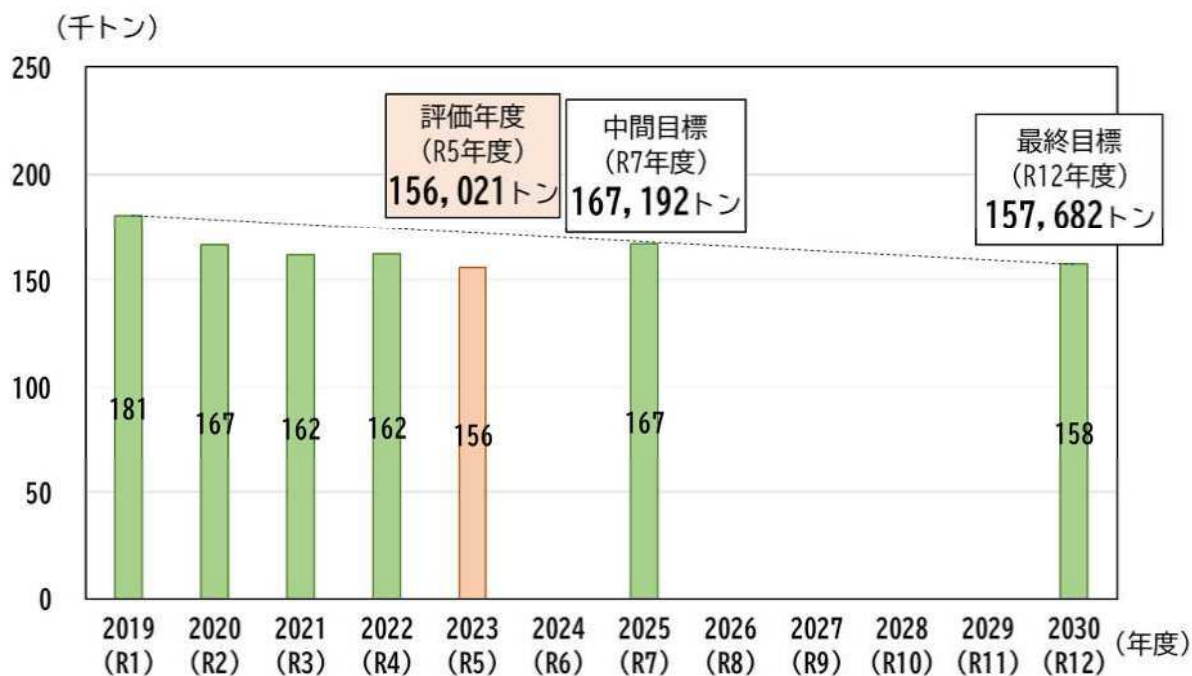
計画目標の項目：市民1人一日あたりの家庭ごみ量



- ・基準年度（令和元年度）以降、プラスチック一括回収等により順調に減少し、中間目標（令和7年度）を前倒しで達成
- ・本計画の中間見直し（令和7年度）において目標値の再検討が必要

2

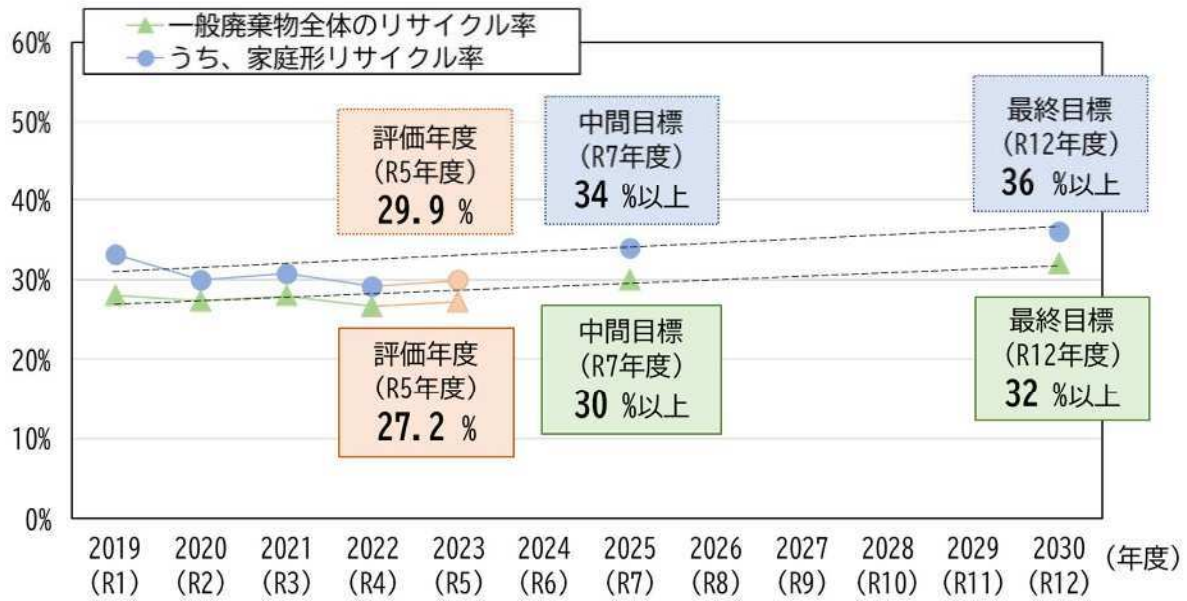
計画目標の項目：事業系ごみ量（市の施設で処理した量）



- ・昨年度は社会経済活動の回復に伴い、微増となったが、焼却工場での検査強化や事業所訪問による指導等により、減少傾向となった
- ・一方で、他の政令市と比べると本市の事業系ごみ量は多く、更なる減量リサイクル対策が必要

3

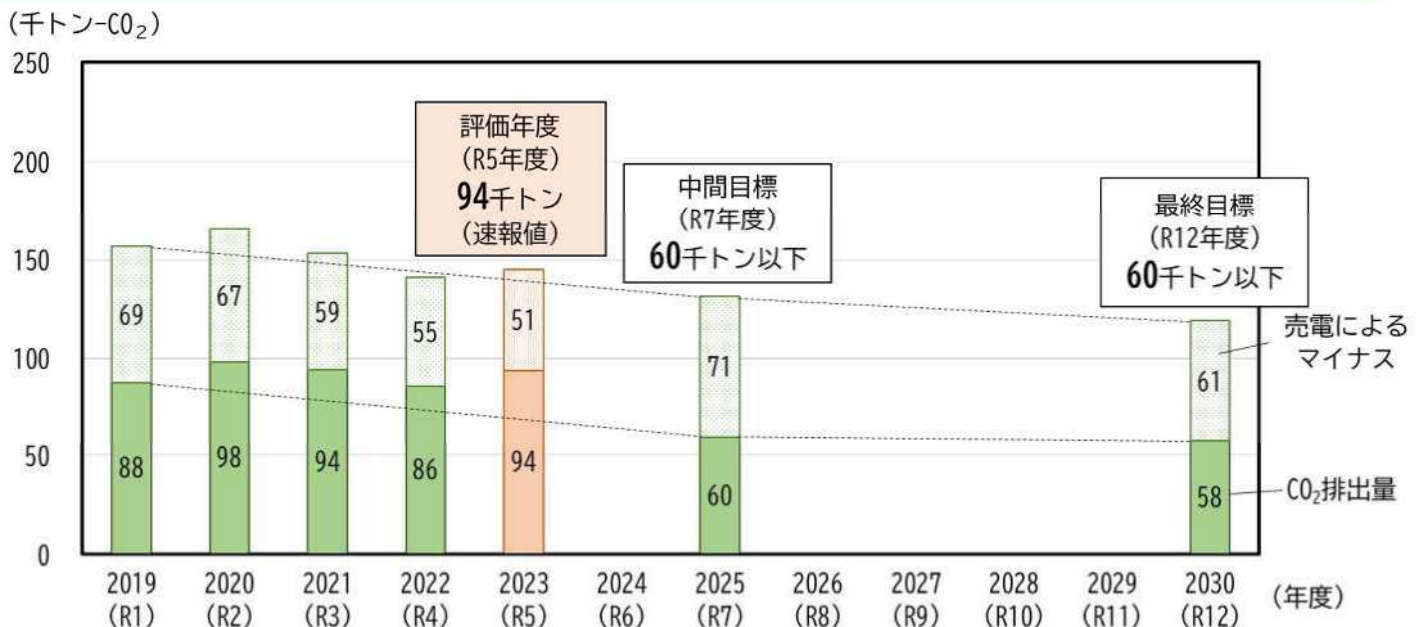
計画目標の項目：リサイクル率（一般廃棄物）



- 紙の流通量の減少や飲料容器の軽量化等の影響により、全体的に資源化物の回収量が減少し、近年のリサイクル率は低迷傾向にあったが、プラスチック資源一括回収等により、上昇となった。
- 一方で、一括回収によるプラスチック収集量の増加率は7%にとどまっております、引き続き広報啓発に取り組み、収集量の増加を図る。

4

計画目標の項目：一般廃棄物処理に伴い発生するCO₂排出量

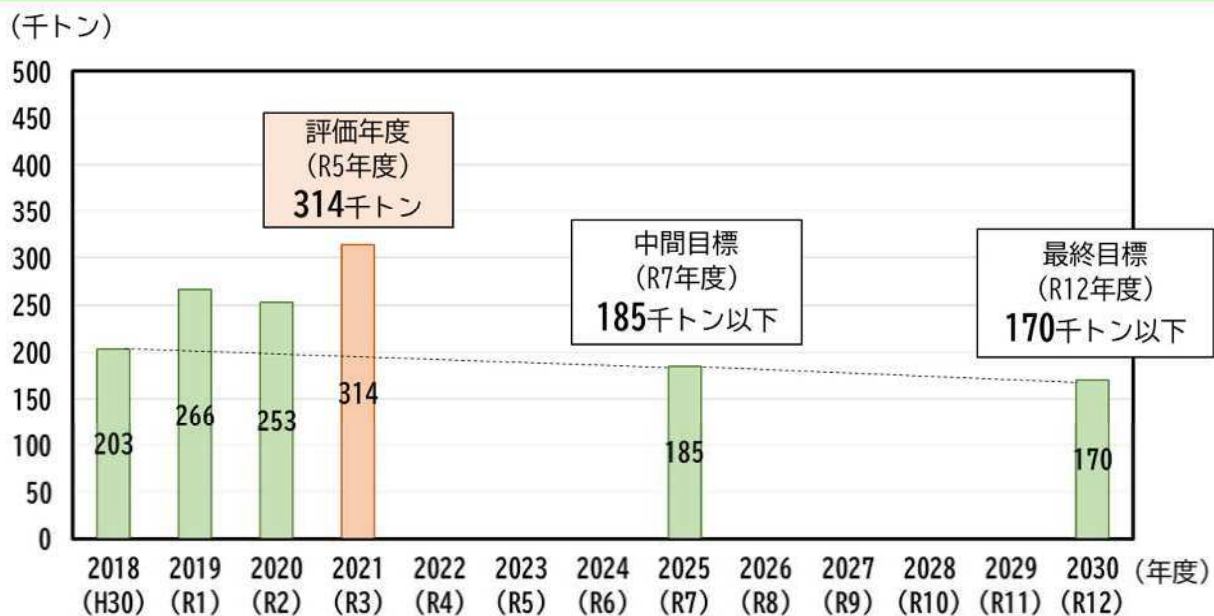


※ CO₂排出量は、一般廃棄物の処理で発生したCO₂量から、焼却工場で発電することで削減したCO₂量を差し引いて算出

- 近年はごみ焼却量の減少に伴い、減少傾向にある。
- 今後は、新日明工場稼働や新門司工場の基幹改良により更なるCO₂の排出量削減を図る

5

計画目標の項目：産業廃棄物の最終処分量



- ・産業廃棄物の排出量は、景気等、社会経済状況の影響を受け変動する
- ・令和3年度における最終処分量の増加は、一部の業種で生産量が増加したことが原因と推定される
- ・本計画の中間見直し（令和7年度）において、再生利用推進の方策を含め、目標のあり方の再検討が必要

6

各施策の取組状況と今後の展望

(1) 3Rの推進による最適な「地域循環共生圏」の構築



1 プラスチックごみ対策

- ・家庭から排出されるプラスチック資源の一括回収を開始
令和5年度10月～3月のプラスチック回収量：3,877トン
(うち製品プラスチック240トン)

2 食品ロスの削減

- ・市内のフードドライブの後援や開催情報を市ホームページで広報（14団体89施設）
- ・食べきりBOX「ドギーバック」を作成し、市内の希望する飲食店舗へ配布（39店舗に1,800個を配布）

【今後の展望】

家庭ごみ減量化とリサイクル率向上のための取り組みを実施

- ・プラスチック資源のさらなる収集量増加のため、継続して広報活動を実施
- ・家庭ごみに多く含まれている紙類の分別リサイクルを推進
- ・廃食用油や使用済み紙おむつなどのリサイクル先行都市やリサイクル技術等の調査研究

事業系ごみ対策の強化

- ・不適正搬入対策やリサイクルの促進など事業系ごみ削減に努める

7

各施策の取組状況と今後の展望

(2) 循環型社会形成に向けた 地域全体の市民環境力の更なる発展



1 市民に対する環境教育の推進

- ・環境イベント「エコライフステージ」をオンラインとリアルのハイブリッドで開催し、参加者一人ひとりの環境行動を実践した

2 地域コミュニティやNPOの環境活動の推進

- ・道路、河川等の清掃活動の実践や地域の公園やごみステーションの美化に貢献しているなど、美しいまちづくりに顕著な成果をあげている個人・団体に対し、感謝状を贈呈

【今後の展望】

環境を意識したライフスタイルの見直し

- ・分別の意義やごみ処理の状況等について市政だよりやホームページやSNSなど、様々な媒体を活用して、市民に分かりやすい情報発信を行っていく。

8

各施策の取組状況と今後の展望

(3) 脱炭素社会・自然共生社会への貢献



1 廃食用油リサイクルの推進

- ・市民センターを中心に回収ボックスを増設し、回収体制を強化

(回収拠点74か所、回収量61kl)

2 木質バイオマス利用の促進

- ・民間事業者の協力を得て設立したFIT認定団体「北九州地域木質バイオマス利用促進会」を活用して、木質バイオマスを扱う林業事業者を新たに認定し、間伐材などのバイオマス資源の利用推進を図った(認定事業者4社、取扱木材993t)

【今後の展望】

- ・廃食用油の回収ボックスを、スーパーやホームセンターなど、市民がより利用しやすい場所に増設し、回収量の増加を図る。
- ・新日明工場の稼働や新門司工場の基幹改良により更なるCO₂の排出量削減を図る。

9

(4) 「地消・地循環」を目指した環境産業の創出と環境国際協力・ビジネスの推進



1 環境産業の創出

- ・エコタウン企業が太陽光パネルのリサイクルシステムを構築し、高度リサイクルが可能な新工場が竣工

2 国際協力・ビジネスの推進

- ・アジアカーボンニュートラルセンターを中心に、アジア諸都市とのネットワークや環境省、JICA等の資金を活用しながら、市内企業の海外ビジネス展開を行い、令和5年度までに90を超える都市で企業と連携し、270件以上のプロジェクトを実施。

【今後の展望】

- ・「蓄電池のリユース・リサイクルシステムの実現」等、北九州エコタウンに新たな産業を創出する
- ・海外ビジネス支援強化や国際協力事業を推進することにより、環境国際ビジネスの拠点形成を目指す

【参考】プラスチック資源一括回収事業について

令和5年10月から「プラスチック資源一括回収事業」を開始

1 収集対象

- ① 容器包装プラスチック
- ② 製品プラスチックのうち、次の要件を満たすもの。
 - ア プラスチックだけでできているもの
 - イ 1辺の長さが50cm未満のもので指定袋に入る大きさのもの

2 収集量(令和5年度実績)

期間	収集量	前年収集量	前年度比
令和5年10月～ 令和6年3月	3,877トン (うち製品プラ 240トン)	3,627トン	約7%増

3 再商品化計画の策定

令和6年3月27日に、九州では初めて(政令指定都市では、仙台市に続き2番目)環境大臣および経済産業大臣により認定された。今後は計画に基づき、

- ① プラスチックリサイクルの見える化
 - ② プラスチックの地消・地循環
- に取り組んでいく。

【参考】プラスチック資源一括回収事業について

4 処理施設の稼働状況(処理の流れ)



① 搬入された指定袋の
処理ラインへの投入



② 処理ライン
(ベルトコンベア・手選別)



③ 圧縮梱包(バール化)



④ 集まった製品プラスチック



⑤ 混入していた不適物
(電子たばこ、はさみ)



⑥ 混入していた不適物
(手持ち扇風機など)